

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100113		
法人名	盛岡医療生活協同組合		
事業所名	仁王ケアセンター すみれグループホーム		
所在地	盛岡市名須川町20-34		
自己評価作成日	平成28年12月13日	評価結果市町村受理日	平成29年5月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;J_gyosyoCd=0390100113-00&amp;Pr_efCd=03&amp;Ver_si_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;J_gyosyoCd=0390100113-00&amp;Pr_efCd=03&amp;Ver_si_onCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1		
訪問調査日	平成29年1月17日(火)		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

協力病院が同法人内にあり、連携が密に取りやすく、医療面でのサポートが充実しています。また、同様に管理栄養士が献立作成、栄養管理を行っているためバランス良く、また、季節感あふれる旬の食材を取り入れたメニューを提供しています。入居者の特徴や有する能力を活かしながら、調理の下準備、盛り付けなど家事全般に参加されることで、楽しみながら美味しく食事を召し上がっていただいております。また身体状況に合わせた食事形態で提供しています。居室空間は一体感のある生活空間でぬくもりが感じられ、その中で馴染みの関係が築かれ、安心して暮らしていただける環境になっています。入居者一人ひとりに寄り添いきめ細かなケアに努めております。盛岡市中心部に立地していることから、ご家族の皆様にも、気軽にいらしていただいております。また、町内会や地域、子供会、組合員の方々の行事への参加に理解、ご協力をいただき交流を深めながら地域に密着した生活を送ることができま。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・町内のお寺とは、クリスマス会に招待され交流を続けており、現在は、お寺と事業所一緒に「ケアラーズ寺町カフェ」(認知症カフェ)を毎月開催し、認知症の啓発普及に努めている。また、紙芝居・読み聞かせのボランティア(月3~4回)や、中学生(引率の先生や家族も来所)のお茶会が、継続して実施されており、地域との交流が根付いている。  
 ・医療生協の方針で、今年度、1週間連続の年次休暇利用を奨励され、数名の職員が活用しており、就業環境が整備されていることが窺われる。また、代表者や管理者は、定例の会議や日々のミーティング等で、職員から意見や提案を聞き、運営や介護の質の向上に反映させている。  
 ・法人内の協力病院や介護事業所との連携が円滑に実施され、適切な医療や介護サービスが提供されている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「医療生協の介護」をもとに、開設時作成した理念を継続している。理念をもとに日常の支援に取り組んでいる。各自のネームの裏に自身で書いた紙を入れ、常に理念を意識し確認しながらケアに努めている。	盛岡医療生活協同組合の理念を基に、グループホームの理念を作成し継続している。また、各自のネームの裏に自身で書いた紙を入れ、常に理念を意識したケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域運営推進委員として、町内会長や民生委員が参加して下さり、町内の現状や情報を提供していただいている。広報も年4回発行し、施設の活動などを発信している。寺町カフェなど毎月の行事や外部からのボランティアも月数回訪問して下さっている。お寺でのイベントにも招待を受けている。	町内会に加入し、清掃活動等に参加している。広報「すみれタイムス」を年4回発行し、町内の回覧板で回覧している。避難訓練には、町内の「自主防災隊」の参加協力を得ている。近くのお寺と一緒に、「ケアラズ寺町カフェ」を月1回開催し、認知症の普及啓発に努めている。紙芝居のボランティアや中学生のお茶会等、交流が続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同建物内の認知症デイサービス・居宅支援事業所と協力し継続し広報を発行している。地域のお寺の協力を得て、寺町カフェ(認知症カフェ)を毎月開催し、地域の方へ介護(認知症)についてなどの情報提供を行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みや入居者の様子・課題などを協議している。町内会長、民生委員、地域包括の方から、地域の情報を提供していただいている。また、月毎に、持ち回りでご家族に参加していただいている。入居者、職員も参加している。意見などを伺いながらサービスに反映している。	運営推進会議には、町内会長、民生委員、市社協西口包括職員、利用者・家族の代表(月ごとに持ち回り)を委員に依頼している。会議では、ホームの運営や行事活動報告をしており、避難訓練の質問や助言がされている。町内会長から、地域の行事等の情報を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の集団指導会議へ参加し、実地指導の検査結果の報告や指導、助言を受けている。入居者の生活に係る事や運営上の問題等、困ったことは、随時連絡し、相談している。市の担当課からのメールなどにより必要な情報得ている。	市担当課には、集団指導会へ参加し、実地指導の検査結果の報告や指導、助言を受けている。また、運営に関することや利用者の対応について困ったことは、随時連絡し相談している。市の担当課からのメールなどで、インフルエンザや身体拘束等の情報を得ている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 すみれグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物のセキュリティー上の問題で、エレベーターの乗り込みに暗証番号の入力が必要となっている。暗証番号を貼付、いつでも入居者が外出できるように対応している。セキュリティーに関しては重要事項説明書において承諾いただいている。	身体拘束について、法人の研修会に参加している。参加後には、自身の行為を振り返り、レポートを提出している。不適切なことばや馴れ馴れしい態度等、会議やミーティング等で注意・検討している。立ち上がりや歩行不安定な方には、ベッド下にセンサーを置いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の学習会を開催し、周知に努めている。入居者様の自室でのケアにあたる場合も、職員同士声を掛け合い、所在を明確にしている。入居者の身体に出来たあざや傷について発見した場合は、他職員にも確認してもらい、カンファレンスで取り上げ、予防対策も検討している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会への参加が出来ておらず、職員の体制づくりを行い、学ぶ機会を作る。入居者の状況の変化により、必要時適切に支援できるよう体制を整えていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、事業所内の雰囲気も感じていただきながら、書面にて説明を十分に行い、理解・納得いただいた上で、契約を締結している。疑問や不安なことが生じた場合は、その都度、説明・相談に応じ理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に窓口を掲載している。また、家族会やクリスマス会などの交流会を開催し、交流の場を設け意見交換している。ご家族より、高齢になり身体面が不安との相談を受け、医療と相談しながらケアに努めている。	意見箱を設置しているが、これまで投稿はない。家族とは、面会時や家族会・クリスマス会等に意見を聞いている。家族自身の相談を受けることもある。また、参加した家族同士の交流も喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月部署会議を設け、現状の課題などを出し合い、職員の意見や提案を聞き、反映している。(今年度はベッドの購入をしている)	毎月の部署会議(グループホームの職員会議)で、職員から出された現状の課題や意見・提案を検討し、今年度は、全居室のベッドを買い換えている。また、法人の方針で、職員は1週間連続の休暇を取得できることとし、数名が活用し、リフレッシュできている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当法人には労働組合があり、職員の要望や意見などは労働組合を通じ環境の整備、労働条件などを話し合っている。また、職責者会議などで職場の状況説明、改善などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部や法人が企画する研修会や学習会に参加しており、業務保障されている。(今年度はリーダー研修、ユニットリーダー研修、グループホーム協会主催の研修会などに)今年度より、新人・中途採用の職員に対してエルダーをつけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所の職員等と会議・学習会の場で情報交換する事が出来る。日常業務の中では、建物内にある認知症デイサービスや居宅支援事業所の職員とも交流を図っている。グループホーム協会等の研修や交換研修などで他施設の方との交流、情報交換もできている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に入居者の声に耳を傾け、思いや希望を聞き取り、職員が一人一人がカンファレンスシートに記載し、介護計画に反映している。日常生活の中の関わりからも本人の思いを受け止め、役割などを持つことで自然な関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・入居申し込み時などに、家族の心配事や不安に思っていることに耳を傾け、ご家族様も安心して生活が送れるように努めている。施設内の雰囲気を感じていただく事で、安心感を生み出している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学・入居申し込み時等に来所された際、すみれグループホームの概要を説明している。家族より、現在の状況などを伺い、必要時は担当ケアマネージャーへの相談をお勧め、連絡をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「自分らしさを大切に、楽しみ、喜びを一緒に感じ合いたい」を目標に利用者の思いを尊重し、入居者の出来ることを見極め、いつでも共に生活する関係を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会の開催、ご面会時に近況報告を行い、普段の様子や変化を伝えている。外出時等の写真、作品などをお見せし、日常の様子がわかり、絆を深めながらご家族と共に支え合える関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族などの来訪や行きつけの美容院などへ通う、近隣スーパーや薬局へ買い物に行くなどして、人との繋がりを大切に支援できるように努めている。毎週デイサービスと合同でダンスレクに参加し交流を取っている。	利用者の誕生日に、職員と2人でお店に出かけ、家族が声がけしてくれた知人が数名待っていて、旧交を温めることが出来た。また、行きつけの美容院への送迎やスーパーに買い物に行く等、関係継続の支援をしている。階下のデイサービスとは、ダンスレクの参加により交流を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を十分に把握し、聞こえ等の問題で会話が上手く理解し難い入居者同士には、座席などの配慮、必要であれば職員が仲介をするなど、寄り添い、良い関係が保てるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設内での看取りで退去されたご家族と、現在ボランティアなどでの繋がりを大切にしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者や、家族のお話を伺い、ご本人の思いや希望を確認し、本人を尊重した介護計画を作成している。日常の会話の中から「〇〇が食べたい」「〇〇に行きたい」といった希望を叶えられるよう検討しケアしている。ご家族の協力も得て、ご本人が立ち上げたお店まで外出もしている。	利用者との日々のかかわりの中から意向や思いを把握し、「〇〇に行きたい」「〇〇食べたい」との希望には、職員でそれぞれのプロジェクトチームを作り、「自分の店(食堂)に行きたい」には、家族の協力を得て店に出かけたり、「ラーメンが食べたい」には、献立を変更し、ホームの食堂を〇〇さんの店とネーミングし、〇〇さんの指導で調理し会食する等、職員が工夫し意向を叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートに記載している。新しい発見があった場合は、職員一人一人がカンファレンスシートに記入し、カンファレンスの際に、情報を共有し介護計画作成時に役立てるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りにて確認すると共に、変化があった場合は業務日誌、個人の記録に情報を残すことで、職員の情報の共有化を図っている。また、医療面での支援が必要な変化については訪看、往診などの協力のもと、指示により受診の支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間、家族との情報共有を密にし、今の状況に合わせ、本人の意思も確認しながら介護計画を作成している。日々の生活の中で気づいた事をカンファレンスシートに記載し、定期カンファレンスで意見交換を行う事で、現状の身体状況の些細な変化にも気づき、医療との連携にも努めている。	管理者を含め、9名の職員で利用者を一人ずつ担当している。定期カンファレンスの前に、その利用者のカンファレンスシートに、職員が気づいたこと、家族から得た情報等を記入し、カンファレンス時には、シートを確認し、課題の改善・継続、新たな課題の検討をし、ケアマネジャーが介護計画を作成している。計画は、家族に了解を得ている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 すみれグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ひとりの生活記録があり、毎日の生活の様子を記録するとともに、新たな気づきや変化などを業務日誌などで申し送り、日々のケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、ご家族の意向を伺いながら、美容院への送迎、出張理髪店との連絡などの支援を行っている。地域のお祭りへも参加、町内のお寺でのクリスマスコンサートへの参加もしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回消防署協力にて避難訓練を実施している。(内1回は町内会や組合員の参加)地域の美容院利用時では美容師が入居者の状況を理解し、安心して過ごせるように配慮してくださっている。近隣の調剤薬局の薬剤師との関係も築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、かかりつけ医について、入居者、家族の意向を確認している。(入居者全員が往診対応になっている)個々のご希望に合わせた受診を行っている。入居者の体調の変化があった場合は、家族、訪看、往診と相談し専門医療機関への受診支援も行っている。	利用者と家族の希望により、協力病院の往診対応になっている。歯科も、協力歯科医院の往診を受けている。皮膚科、眼科等の専門医受診は、原則家族が行っているが、家族が都合つかない場合は、職員が通院介助している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の訪問看護ステーションとの医療連携契約を行い、週1回の訪問看護の健康チェックを受け、健康管理や医療面での助言を受けている。また、定期的に医療の支援が必要な入居者に往診や訪問看護の受け入れを支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、可能な限りムンテラに参加している。入院時には、入院医療機関へ入院に至るまでの生活状況の情報を提供し、治療状況などを把握するため、ご家族に連絡を取りながら、医療機関との情報交換を行い、関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態が重度化した場合、家族の希望も尊重しながら、医療連携の協力機関でもある川久保病院在宅診療科や訪問看護と十分に検討を重ね話し合いを行い、今後の方針を検討している。入居者、家族が安心して暮らせるような体制を整え支援している。体調の変化に早期発見できるように努めている	グループホームの「医療連携体制及び看取りに関する指針」を作成している。利用者が重度化した場合、これまでも看取りを経験しており、利用者や家族の意向を尊重しながら、協力医療機関や訪問看護と連携を図り、支援して行きたいと考えている。重度化や看取りについて、指針を含め研修を実施することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変に対しての対応マニュアルを作成し全職員で周知徹底し、適切な対応が木偶量に努めている。状況により受診、救急搬送が必要な場合は、職員間で連携を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、消防署立ち合いの避難訓練を年2回実施している。(町内会自主防災体、組合員の参加)その他に施設内独自の避難訓練を毎月実施し、入居者、職員が慌てず避難、誘導が出来るように取り組んでいる。	消防署立会いの避難訓練を、年2回実施している。また、毎月、事業所独自の訓練を実施している。消防署立会いの訓練には、町内会自主消防隊、盛岡医療生活協同組合の組合員の協力を得ている。訓練を重ね、利用者は、自然に避難場所に集合するようになってきている。夜間想定訓練は実施しているが、今後、実際の夜間の訓練を検討している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー、個人情報保護の学習会を毎年行っている。部署会議の際に、個々への声かけやプライバシーについての話し合いを行っている。一人ひとり自分らしさを大切にできるような声かけを心がけている。	利用者への、言葉使い、声の大きさ、態度等個々の対応について話し合っている。排泄の失敗では、他の利用者に見られないよう、居室やトイレに誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、家事動作のお手伝いをお願いする場合など「〇〇していただけますか」と、自己決定できるような声かけをし、日々の入居者様の思いをくみ取りながら、認知症状の理解に努めている。帰宅願望がある場合などは、一緒に外に出かけたり、寄り添い話を聞くように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、入居者、個々の思いや時間の流れを尊重した対応に努めている。個々のペースに合わせ、時間がかかっても有する能力を生かした生活を送れるように支援している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 すみれグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択が困難な方には、衣類を見せ、ご自分で選択して頂いている。起床後の洗顔や頭髮の整え等、出来るだけ鏡を見ながら行っている。理美容については適時、近隣の美容院に行ったり、訪問理容を依頼している。男性入居者へは髭剃りも自発的に行える様にさりげなく促している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の個々の状態に合わせた調理の下準備、盛り付けや片付け、茶碗ふきなど入居者と一緒に行っている。時々、入居者の要望に沿って、献立を変更し楽しみながら召し上がっている。	献立は、法人の管理栄養士が作成しており、栄養バランスや水分確保に配慮している。職員が調理し、利用者は、食材の下準備や盛り付け、茶碗拭き等、自分の出来ることを手伝っている。おやつに、ホットケーキや差し入れを利用してスイーツを手作りすることもある。また、○○食堂(利用者が経営していた)と書いて、利用者の指導のもと買出しや調理をし、ラーメンを食べるなど、職員が工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当法人が経営する病院の管理栄養士が、バランスを考慮した内容の献立を作成しており、食事摂取、水分摂取確認票を活用し、入居者一人ひとりの摂取状況の把握に努めている。入居者の状況に合わせてミキサー食にて提供するなどの支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声がけをし、自室の洗面台で行っている。ご自分で行えない入居者には声がけ、確認をしながら口を大きく開けてもらい、発声練習なども行いながら支援している。義歯の方に対してはポリドント消毒も実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者個々の排泄パターンを把握し、羞恥心に配慮しながら誘導、支援を行っている。また、排泄の訴えのない入居者様には、おおよそのパターンを把握し、声がけ後トイレ誘導している。尿取りパットが汚れている場合も速やかに対応している。	個々の生活記録で排泄のパターンを把握し、トイレに誘導している。夜間、おむつを使用している方が2名おり、1人は本人の希望でポータブルを用意している。自立の方は2名、他は、リハビリパットと尿取りパットを併用している。現状維持と、自立に向けての支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れた献立のほか、こまめな水分摂取の支援を行い、体を動かす機会や必要に応じて腹部マッサージも効果があることを伝え取り組んでいる。(リハビリ体操を日課として取り組んでいる)		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 すみれグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前のバイタル測定を行い、体調に留意している。体調不良の場合は清拭、部分浴(陰洗、足浴など)の代替え方法で対応している。本人の意向に沿えるよう対応している。(順番、入浴剤の使用など)	浴室は、月曜日から土曜日準備しており、利用者は週3回から4回入浴できている。当日の体調に考慮し、清拭や足浴で対応したり、入浴後の水分補給など、健康にも留意した入浴支援となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休憩を取りたい方には、いつでもゆっくり休んでいただけるよう居室への声掛け、誘導するように配慮している。気持ちよくゆっくり休んでいただけるよう、室内の温度調整や採光調整などの配慮も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者ごとに処方薬の説明が書かれた書面をファイルし、常に確認できるようにしている。不明な点や体調に変化があった場合は、医師、薬剤師に相談し指示を仰いでいる。薬は職員が預かり、処方箋に沿って、ご本にお渡ししている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居されるまでの生活や習慣を継続していただけるよう、調理、掃除、洗濯干し、洗濯たみ、買い物などの日常生活に生かす支援を行っている。また、以前から行っていた趣味活動が継続できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候、入居者の体調を考慮しながら、希望(ホーム周辺の散歩、買い物、ドライブなど)に沿えるように外出の支援をしている。今年度の家族会は、地域(家族、組合員)の協力のもと雫石まで日帰り温泉に行っている。	天候が良いときには、事業所の周辺や近くのお寺に散歩したり、おやつを買いにスーパーに行ったり、西根の道の駅、高松の池の桜、岩山展望台等にドライブしたり、外出の支援をしている。また、家族会では、利用者と家族、職員、盛岡医療生活協同組合の組合員も参加し、日帰りで雫石の温泉に出かけており、利用者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際は、財布を持ち、買い物の支援を行っている。金銭管理の難しい入居者についても、買い物の希望時はホームの立て替え払いで対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から、ご家族、友人、知人への電話の希望があった際は、電話を掛けるお手伝いをしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 すみれグループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁面に、季節の行事などに配慮した飾り付けを毎月、行事担当と利用者と一緒に、作り飾っている。飾りを見ながら、入居者同士の会話も見られている。日差しなどはカーテンで調整している。テーブルや家具の位置は、歩く際に妨げにならないように工夫している。	共用の居間は日当たりがよく、明色のカーテンで調節している。壁面には、毎月、行事担当の職員が利用者と一緒に、季節に配慮した飾り付けをしている。今月は「謹賀新年」のポスターで、2月の節分(鬼の面、豆の代わりに三角小袋の甘納豆を撒く)の準備をしている。利用者の座高が低くなり、食卓の高さの検討をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日常生活の中では、それぞれの席で過ごされるが、窓際やエレベーター前のソファーや椅子で気分転換が図れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者ができるだけ、ご自宅で使い慣れたものをもち込んでいただけるよう説明し、使用している。入居者、家族と相談し、使いやすいように家具やベッドの配置をしている。動作の妨げにならないような工夫に努めている。	居室には、ベッド、衣装ロッカー、小箆筥、洗面台が備え付けてある。寝具、椅子、小卓等を持ち込んだり、家具やベッドを使いやすいように配置している。また、ご主人の遺影や家族の写真が飾られている。部屋は、漂白剤で拭き掃除し、清潔が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差がなくバリアフリーだが、歩行が不安定な入居者の安全に配慮し、見守り・必要に応じ手引き歩行や車イスでの介助を行っている。掃除、調理、洗濯など本人が出来ることを引き出し、一緒に行っている。		